

瀧澤清治さんを偲んで

阿部市郎

昭和45年前後のことと思いますが、プレハブ建築協会において、私は木質系技術分科会の代表幹事を務め、瀧澤さんは鉄鋼系代表幹事の大和ハウス青木常務と帯同して良くプレハブ建築協会に出ておられ、やがて青木常務の後を継がれて鉄鋼系プレハブの代表幹事として活躍しておられました。

お互いにライバル会社同士ですが、外部に向かっては一致協力して業界活動を進めておりました。対建設省や通産省の折衝業務や主婦連・地婦連など消費者に対する活動などは共に矢面にたって動いていましたから、その面では40年近い戦友です。

プレハブ建築協会のみならずその後住宅生産団体連合会が設立された以後は大和ハウスの石橋信夫会長が長く会長をされていたのでその補佐役として政策委員長等を歴任され、つわものぞろいの会員各社の委員の取り纏めをされていました。

瀧澤さんが内外に細かく気配りされ取り纏めをされる調整力は皆から感服され感謝されていました。

大和ハウスをリタイアされ大和団地に移られる時も、住宅業界有志が発起人になって「瀧澤さんに感謝する会」が霞ヶ関の三井クラブで挙行されましたが、この時は民間のみならず住宅局長はじめ官側の方々も多数出席され盛会でした。

業界から「感謝される会」をしてもらったのは瀧澤さん

のみで、その後この様な例はありませんでした。如何に公正にその任務を果たしてこられたかということです。

10年前東大の松村先生から建築技術支援協会設立のためのよびかけがあった時、私は瀧澤さんと住友林業の技師長の福本雅嗣さんに声をかけ3人でこの会の設立に参画いたしました。

以来10年余戸建住宅部会長として、本当に良き友であり頼りになるパートナーとして、私を支えてくださったことを心より感謝申し上げます。

当初より住宅金融公庫（住宅金融支援機構）との共催（後に後援）で現在まで続いているホームビルダー住宅実務セミナーも企画提案実施と瀧澤さんの絶えざる支えがあつて続けてこられました。

また、2002年より日経ホームビルダー誌に連載された「住宅技術Q&A」は企画提案・原稿チェックと毎月精魂込めて推進され、後に集大成として「住宅技術の新常識—Q&Aでわかる」が日経BP社より出版されました。

毎年秋に実施されて皆が楽しみにしていた研修旅行も企画から実施まで瀧澤さんのご努力あつてのことでしたが、凶razも昨年秋の京都桂離宮修学院離宮見学旅行が最後になろうとは思ひも及ばぬことでした。

敬愛する良き友を天にお送りして、日にちが経過しても私の心の中に大きな穴がぼっかりと開いて埋まらない思いでこの文章を書いています。

寺子屋サーツ

第4回：「五重塔の原理を応用した11階・9階建校舎の耐震改修」

講師：和田 章代表理事

日時：9月25日18:00～

会場：サーツ事務局 受講者数：23名

地上11階・9階建鉄骨鉄筋コンクリート造の東京工業大学の校舎の耐震改修について、和田先生より基本的考え方も含め丁寧に紹介された。

この改修では強い連層耐震壁（プレストレス）の各階両端にダンパーを取り付けたロッキング壁を既存建物に取り込むことにより特定層破壊を防止し耐震性を高める、「五重塔」の耐震性に似た新しい構法等が工夫され、現在着工中のことである。

この新しい工法について、耐震安全性の確認は通常の

耐震診断（I s 値等）によるものではなく地震応答解析によっているなど先進的技術として理解した。免震協会を設立され、80歳を超えなお現役として構造設計界を牽引されている山口先生はじめ参加者は、理論、技術的内容、施工法等の議論で盛り上がり、12月または1月（その後2010年3月予定となる）の施工中の現地見学を楽しみに期待し終了した。（安部重孝）

第5回：「次世代林業システムについて」

講師：米田雅子常務理事

日時：10月28日18:00～

会場：サーツ事務局 受講者数：20名

『次世代林業システム』をテーマに現状の抱えている問題点、解決の方策、将来（現在）の方向性について講演され、

3. 戸建部会の活動状況報告

1) 国土交通省平成21年度住まい・まちづくり担い手支援事業「ツーバイフォー・タウンハウス団地における耐久性の現状調査(関西)と、ストック性能向上のためのリノベーション方策の検討」

- ① アンケート調査…13団地にコンタクトし、10団地回収済、千葉大森田研に集計分析依頼済。
- ② 現地調査…外観写真撮影・資料収集済。
- ③ 詳細調査…現地管理組合と日程調整中。

2) 国土交通省マンション等安心居住推進事業(モデル支援)

(1) 行徳ファミリオ・タウンハウス…NPOマンション再生なびに協力し採択を受けた調査、「マンションに建て替えか、大規模回収による継続居住かを定めるための耐久性調査」で小須田氏が主査で8月より調査開始(屋根・外壁・屋内床壁レベル・床下)10月末で全戸調査完了。

(2) ガーデントOWN南桜井「長期修繕計画(案)策定のための建物劣化調査」をサーツ単独応募で採択され、小藤理事が主査で屋根調査・床下調査・外壁・屋内壁床レベル等10~11月末で全戸調査完了。

3) 国土交通省地域木造住宅市場活性化推進事業

山口建設産業協会が応募採択された「長期優良住宅認定推進のための支援システム構築」の作成作業を受託し福本理事片岡会員で推進中。

4) 21年度ホームビルダー住宅実務セミナーは下記5回まで実施した。

- ① 工務店で出来る地盤調査 9月3日
- ② 軸組工法のチェックポイント 9月15日
- ③ 長寿命住宅における地盤の重要性 10月22日
- ④ 省エネルギー法改正とエネルギー各社の新技術商品 11月5日
- ⑤ 住宅基礎の計画と設計 11月17日

5) 浅野工学専門学校特別講座に下記講師を派遣した。

- ① リフォーム 中村 正實
- ② 地盤 石井 茂
- ③ 免震・制震 貝原 尚夫

6) 秋季研修旅行 10月18~19日 会津若松、喜多方方面探訪、参加者14名

(阿部市郎)

平成21年通年

任意団体である「木造住宅合理化システム普及協会」より受託した、本年6月に施行された「長期優良住宅の促進に関する法律」をテーマとした事業を提案してきました。最終的に普及協会会員が、「長期優良住宅認定」取得に向けての作業を支援するための資料として、以下のテーマを実施し

- ① 長期優良住宅認定基準をベースとした仕様書の作成、
 - ② 長期優良住宅の認定取得に必要なとする設計図書の雛型の作成、
 - ③ 住宅履歴100年計画案の提案、
 - ④ 主要工程部分の工事管理チェックシートの作成
- を木造軸組工法をひな型として作成し8月に完了させました。

(一般法人)山口県建設産業協会が、平成21年度事業計画として、国土交通省が実施している「地域木造住宅市場活性化推進事業」に応募し、その提案が採択され、その企画立案に基づいて内容の再設計を行い第二段階である具体の作業を実施しております。

この事業が求めていることは、地域における中小工務店の振興と事業の活性化につながることにあります。当協会の立場はあくまで作業協力者であります。多少なりともこの目的の趣旨を理解している一員として協力してゆきたいと考えております。

具体的内容は、

- ① 長期優良住宅に必要なとする標準仕様書の作成
- ② 長期優良住宅の認定取得に必要なとする設計図書の雛型の作成。
- ③ 住宅履歴作成のためのマニュアル(案)の提案
- ④ 各種提案書の作成
 - i. 維持管理マニュアルの作成
 - ii. 省エネ設計マニュアルの作成
- ⑤ CPU利用による積算作業の合理化
- ⑥ 工事管理手法の提案
- ⑦ 研修会の実施
- ⑧ 報告書作成 となっております。

以上の作業を来年1月末には完了させ、報告書としてまとめる予定となっております。(福本雅嗣)

部会報告 3 集合住宅部会

集合住宅部会報告はお休みいたします。

前回「クルージングを楽しむ」の拙文を読んでくださった会員がら、私共が参加したニュージーランド・オーストラリアクルージングと同じコースに参加されて、大変楽しかったと帰国后感想を私までつたえてくださった。さて、私は念願とおり2008年10月5日～19日に東部アメリカとカナダの紅葉とプリンスエドワード島を訪ねるクルーズに参加することが出来た。

この度は、セレブリティ・コンステレーションという10万トンクラスの船でニューヨークから乗船してアメリカ/メイン州ポートランド→カナダ・プリンスエドワード島シャーロットタウン→ケベック→モントリオール→イースタントウンシップ→ケベック→カナダ・ノバスコシア州・ハリファックス→アメリカ・メイン州・バーハーバー→ニューヨークという15日間の行程である。

丁度、「赤毛のアン」が誕生して100年ということで、乗船前にあわただしくモンゴメリーの原作をとりあえず読んでの参加であった。作品の舞台になったシャーロットタウンは歩いて廻れるようなコンパクトな町で、アンの家グリーンゲイブルスも丁寧に保存され、物語を彷彿とさせられた。

今回の旅は、東部アメリカとカナダの紅葉を観る旅でもあったが、船でセントローレンス河を遡上して訪ねたケベックと沿岸の見事な紅葉の景色、2日の停泊間を利用してのイースタントウンシップの紅葉、特に宿泊したホテルの2階デッキから見た地平線まで続く高原の紅葉は正に絶景であった。また、船でなければ行かれないような町々、特に今回訪れたハリファックス郊外のアンティークの村マホーン・ベイなどは、村の小さな入り江に多くの小島が浮かび、水辺に3つの教会が並んで影を落としている光景は息を呑むような美しさであった。

食欲の秋で寄航した港のシーフードレストランで大きなロブスターを茹でてオリーブ油を付けて食べるランチには堪能した。特にバーハーバー島で食べたロブスターとデザートブルーベリーパイは絶品であった。この店に入場待ちで並んでいるときに、この店のブルーベリーパイを是非食べなさいと道行く人に勧められたが期待にたがわぬ味であった。このような出会いも旅の楽しみの一つである。

クルーズ船は夫々特徴があり、新しい出会いを求めてそろそろ次の計画を模索しているところである。



「赤毛のアン」の家・グリーンゲイブルスの前で



マホーン・ベイのレストラン、ロブスターのランチ



クルーズ船、セレブリティ・コンステレーション